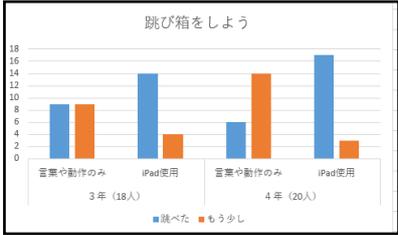


タイトル	自分の跳び箱の跳び方を視覚的に確認できるようにするためのiPad活用																					
学校名	茨城県立水戸飯富特別支援学校	学部・学年	小学部3・4学年																			
教科名等 単元・題材名	体育科 「跳び箱をしよう」																					
児童生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力は高いが、運動に対して経験不足の児童が多い。 ・合言葉など、リズムカルな言葉の表現が好きな児童が多い。 																					
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい位置に手をついて、跳ぶことができる。 ・足を閉じて着地することができる。 ・踏み切り・着手・着地を、ダン・トン・ピタのリズムで、跳ぶことができる。 																					
ICT活用の ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・遅延再生アプリを用いることで、自分の跳び方が視覚的に分かる。 	主に活用した アプリなど	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad ・アプリ「Video Delay」 																			
授業における 支援 授業展開	<p>○アプリ「Video Delay」について</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱を跳ぶところを撮影することで、設定した時間を遅らせて再生することができる。 ・遅延再生の時間は、自分で設定することができる。 ・録画機能もある。 <p>○支援の手立てと授業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱3台ともiPadを設置し、全員が自分の跳び方を確認できるようにした。 ・段階（それぞれの跳び箱）に応じて、遅延再生の時間を変え、滞らずに確認できるようにした。 ・教師と一緒に確認して、つまずいているところを言葉でも確認できるようにした。 ・録画したものを大型スクリーンに映し出し、学習の振り返りができるようにした。 <p>○言葉のみで伝えた時とiPadを使用して支援した時との比較（実証研究結果）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">3年(18人)</th> <th colspan="2">4年(20人)</th> </tr> <tr> <th>言葉や動作のみ</th> <th>iPad使用</th> <th>言葉や動作のみ</th> <th>iPad使用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>跳べた</td> <td>9</td> <td>14</td> <td>6</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>もう少し</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>14</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>  <ul style="list-style-type: none"> ・自分の跳び方を視覚的に確認することで、改善点が分かり、3年生、4年生ともに跳ぶことができるようになった児童が増えた。 ・自分の跳ぶ映像が見られるので、学習に取り組む姿勢が変わった（繰り返し跳ぶ回数が増えた）。 <p>○学習の様子</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> (写真1) (写真2) </div>				3年(18人)		4年(20人)		言葉や動作のみ	iPad使用	言葉や動作のみ	iPad使用	跳べた	9	14	6	17	もう少し	9	4	14	3
		3年(18人)			4年(20人)																	
言葉や動作のみ		iPad使用	言葉や動作のみ	iPad使用																		
跳べた	9	14	6	17																		
もう少し	9	4	14	3																		
児童生徒の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の目で跳び方を確認することで、児童が自分で頑張ることが分かり、自分の目標をよく確認して決めることができていた。 ・跳び箱を跳ぶときに、どこにつまずきがあるのかを知ることで、実態に応じたグループ練習を設定することができ、自分の苦手な活動も楽しんで学習することができていた。 																					